

## 別紙 3

(調査研究事業の場合)

### 事業概略書

訪問看護の看取りや医療依存度の高い療養者を支える機能の充実と質確保に関する調査研究事業  
一般社団法人 全国訪問看護事業協会 (報告書 A 4 版174頁)

#### 事業目的

超高齢化社会の到来に伴い、今後、地域でより多くの看取りや医療依存度の高い療養者を支えていくことが必要不可欠となる。訪問看護は、これらの療養者を医療と生活の両面から支援することのできる専門的サービスであり、その機能の充実と質の確保の具体的に整備を進めることは、喫緊の課題である。

そのため本事業では、「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針」となるような評価項目・評価指標を検討・作成した。これらを通じて、新たな時代を迎えるわが国の訪問看護ステーションに求められる役割や目指すべき方向性を示し、広く共有することを目的とした。

#### 事業概要

1. 検討委員会10名により4回開催した。

第1回平成26年7月23日

第2回平成26年10月6日

第3回平成26年11月14日

第4回平成27年2月24日

2. ワーキング委員会7名により1回開催した。

第1回平成26年9月24日

3. 「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針」の作成

1) 「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針(案)」の試行調査

2) 因子分析

4. 「利用者満足度調査」の作成

1) 「利用者満足度調査(案)」の試行調査

2) 因子分析

## 【委託：三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

### 調査研究の過程

本事業では、有識者からなる検討委員会及びワーキング委員会等での検討を通じて、訪問看護の現状や今後期待される役割等を踏まえた評価項目の作成を行うとともに、試行調査の際に収集したデータ等を用いた詳細分析を実施し、事業所特性に応じた傾向等を分析した。

#### 1. 「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針」評価項目・評価指標の作成

##### 1) 「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針（案）」の作成。

訪問看護ステーションにおける評価項目・評価指標を検討・作成した。さらには、これらを通じて、新たな時代を迎えるわが国の訪問看護ステーションに求められる役割や目指すべき方向性を示し、広く共有することを目的とした。

今後の訪問看護ステーションに求められる役割や目指すべき方向性として、具体的には以下の5つを設定した。

- ① 医療依存度の高い方の在宅療養生活の継続の支援
- ② 在宅での看取りを支えるケアの提供
- ③ 小児・精神障害など幅広い疾患・病態への対応
- ④ 多職種と一体となったサービス提供
- ⑤ 地域包括ケアシステムの構築に向けた貢献

訪問看護の質の評価については、既に複数の評価項目が提案されており、実際の現場においても有効に活用されているところである。

現場において活用されている以下の3つの既存の評価項目を参考に評価項目を作成した。

- 訪問看護ステーション評価マニュアル, 1999. 7, 全国訪問看護事業協会編集
- 訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル, 2012. 10, (発行) 日本看護協会出版会, (監修) 日本訪問看護財団
- 平成26年度東京都福祉サービス第三者評価実施における共通評価項目、標準的な調査票（訪問看護）, とうきょう福祉ナビゲーションHP

##### 2) ワーキング委員会での検討

訪問看護事業所管理者を交え項目についてディスカッションした。内容の妥当性を確認し、また、難しい表現や意味が重複している項目について整理した。

◆以上を経て、81項目各5段階評価の評価項目と21項目の評価指標を作成した。

##### 3) 「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針（案）」試行調査

「標準的指針（案）」の使いやすさや妥当性を検討するために、訪問看護ステーションに試用してもらった。全国訪問看護事業協会の会員向けに行ったFAX調査において、試行を希望する事業所を募集し、希望のあった444事業所を対象に実施した。

期間：2014年12月5日（金）～平成27年1月13日（火）

回収率：64.4%（286票回収/444票配布）

## 2. 利用者満足度調査の作成

### 1) 利用者満足度調査（案）の作成

#### (1) 文献から検討

- ① 平成21年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業訪問看護の基盤強化に関する調査・研究事業において収集した訪問看護事業所で利用している利用者満足度調査票の項目を意味内容から分類した分析結果
  - ・ 全国訪問看護事業協会（2010）. 平成21年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業訪問看護の基盤強化に関する調査・研究事業報告書.
  - ・ 藤田淳子、福井小紀子（2012）. 全国の訪問看護ステーションにおける質管理の取り組み、その実施状況と課題. コミュニティケア、14(12)、66-71.
- ② 諸外国にて公的に利用されている在宅ケア利用者の満足度調査票として、米国で用いられているHome Health Care CAHPS surveyとオランダで用いられているCQ-index nursing care and home care.
  - ・ Home Health Care CAHPS survey のHP (<https://homehealthcahps.org/Home.aspx>)
  - ・ Quality Framework Responsible Care  
(<http://www.biomedcentral.com/content/supplementary/1472-6963-10-95-S1.PDF>)
  - ・ Triemstra, M. et al. (2010). Measuring Client Experiences in Long-Term Care in the Netherlands: A Pilot Study with the Consumer Quality Index Long-Term Care. BMC Health Services Research, 10(95)
- ③ 日本において利用されている利用者満足度調査票
  - ・ 日本訪問看護振興財団(2007). 新版訪問看護ステーション開設・運営評価マニュアル、日本看護協会出版会
  - ・ 平成26年度東京都福祉サービス第三者評価実施における共通評価項目（訪問看護、利用者調査）. とうきょう福祉ナビゲーションHP
- ④ 訪問看護事業所管理者へのインタビュー調査として、訪問看護事業所管理者5名に利用者満足度調査において測定したい項目について尋ねたインタビュー調査結果
  - ・ 藤田淳子（2014）. 訪問看護の利用者満足度調査の視点と課題, 第19回日本在宅ケア学会学術集会講演集、161.  
その他、訪問看護ステーション評価マニュアル（全国訪問看護事業協会、1999）を参考とした。

#### (2) ワーキング委員会において検討

訪問看護事業所管理者を交え項目についてディスカッションした。内容の妥当性を確認し、また、難しい表現や意味が重複している項目について整理した。

#### (3) プレテストの施行

訪問看護利用者9名に回答してもらった。回答分布を確認して回答方法を検討し、また、回答しづらい項目について尋ねて表現を修正した。

◆以上を経て、22項目、各5段階評価の利用者満足度調査票（案）を作成した。

### 4) 「利用者満足度調査（案）」試行調査

「利用者満足度調査（案）」の妥当性、使いやすさを検討するために利

用者に試行してもらった。

調査方法は、評価項目試行調査（1-3））に協力いただいた訪問看護事業所から、それぞれ1名の利用者を抽出してもらい、依頼状と訪問看護利用者満足度調査（案）、返信用封筒を渡してもらった。回収は、事業所に渡すのではなく、利用者が全国訪問看護事業協会に直接返送する方法とした。

なお、各事業所から利用者を抽出する際には、以下の条件に従って抽出して頂いた。

条件1) ① ターミナル期（がん、非がんを含む）

② 特別管理加算算定者

条件2) 貴ステーションからの訪問看護の利用が2週間以上

条件3) 自費のみの利用者は除く

また、各訪問看護事業所からは、利用者満足度調査の対象とした利用者の基本情報に関する利用者個票について回答し返送してもらった。対象となる444事業所から各1名の利用者へ配布してもらったうち、回収は253票で、回収率は57%であった。そのうち、各事業所から回収した利用者個票と利用者満足度調査票及び利用者個票（E票）のマッチングが可能なものは227票であった。

## 事業結果

### 1. 「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針」評価項目・評価指標の作成

本事業では、当該37項目をもって「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針」とした。また、実際の運用に際して取得の必要があると考えられるデータ33項目を評価指標とした。

#### 【今後の課題】

今後、訪問看護ステーションでは、これらの評価項目を活用しながら、継続的に自らの取組をモニタリングしていくことが望ましいといえる。

また、それぞれの評価項目は、「看取りや医療依存度の高い療養者を支える訪問看護ステーションの標準的指針」としての役割を持つものであるが、現状では項目が示されるのみで、その具体的な取組内容までが明示されている状態にはない。今後は、それぞれの評価項目についてより具体的な取組内容を整理し、ガイドラインとしてまとめていくことなどが必要である。

### 2. 利用者満足度調査の作成

前述の分析結果から、項目分析・因子分析から選定した15項目と、自由記載から新たに作成した3項目からなる全18項目を「訪問看護利用者満足度調査（第1版）」とした。

#### 【今後の課題】

実際に用いる際には、利用者の属性（年代、性別など）や自由記載を含めて調査をすることが想定される。今後は、「利用者満足度調査（第1版）」について、回答が高く偏らないよう幅広く各事業所の利用者全体を対象として調査し、妥当性・信頼性を検証していく必要がある。